

FOODEX JAPAN 2015への出展について

雑穀輸入協議会

来年3月に開催されるFOODEX JAPAN 2015に雑穀輸入協議会として「世界の豆」をテーマに出展参加することとしましたので、その概要を説明いたします。

1 FOODEX JAPANの概要

1976年から毎年開催しているアジア最大級の食品・飲料専門の展示会であり、2015年で40回目を迎えます。開催規模は、食品の国際取引の活発化に伴い、年々拡大しています。

正式名称：FOODEX JAPAN 2015（第40回 国際食品・飲料展）

開催期間：2015年3月3日（火）～6日（金）の4日間

開催場所：幕張メッセ 千葉市美浜区中瀬2-1

予定来場者数：75,000名（2014年実績：75,766名）

出展者数：2,500団体（2014年実績：2,808団体（国内1,046、海外1,762））

出展参加国：75ヵ国・地域

主催：一般社団法人日本能率協会ほか5団体

後援：外務省、厚生労働省、農林水産省、観光庁ほか

2 雑穀輸入協議会の出展計画

2016年の「国際豆年」（豆類時報No75（2014年6月）の業界団体コーナー参照）に向けて雑穀輸入協議会として何ができるか意見交換を行った結果、その第一弾として、食品産業業界の最大のイベントの一つであり、世界の食品・飲料の生産流通加工関係者が一堂に会するFOODEX JAPAN 2015に出展参加することといたしました。

(1) 出展テーマ：世界の豆

(2) 出展のポイント

豆類の認知度アップを目標に、以下の4つのコーナーを中心に展示を行う。

○2016年「国際豆年」の認知度アップ

○世界の多様な豆類の紹介

○豆の栄養と機能性のアピール

○世界の主要な豆料理の紹介

(3) キャッチコピー

シシルズ（CICILS：豆類の国際的な団体）の2014年度の南アフリカ・コンベンションにおいて、我が国代表から日本の国際豆年に向けての活動スローガンを‘Pulses make you stronger and healthier’と発表し、各国の賛同を得た経緯があるため、これを中心に検討する予定です。ちなみに米国の豆類団体（USDBC）では、消費啓発の切り札として“Beans for Health”を採用しています。

(4) 出展内容

展示方法、試食の対象品、配付資料等については、今後、協議会内外の叡智を集め、内容を詰めたと考えていますが、これまで協議会内で提出された主な意見は、次のとおりです。

- 世界の豆料理の試食については、専門料理店等の支援、協力を求めるべき
- 特に豆を使ったスープ、サラダなどのhealthy料理でアピールすべき
(例：ブラジル、イタリア、スペイン等の豆料理店、洋風惣菜販売店)
- 2016年「国際豆年」の提唱団体であるシシルズと連携し、そのPRをロゴ入りのステッカー、サンプル袋などで積極的にアピールすべき
- 豆の栄養素・機能性を内外にアピールするため、豆類関係団体には資料やパンフレットで有用なものがあるので、これらの資料提供等につきご協力を仰ぐべき
- サッカーワールドカップ開催直後で、2016年がリオデジャネイロ・オリンピックということもあり、豆類消費大国のブラジルが注目を集めていることもアピールの要素とすべき

3 今後の進め方

出展計画の具体的な内容については、近々たたき台を提示して協議会の「国際豆年」推進委員会でフリーディスカッションを行った後、全国豆類振興会や豆類関係団体の皆様のアイデアやご意見を拝聴した上で、年内に成案に漕ぎ着けたいと考えております。

以上